

■既存建築物の概要等

設計図書等の有無	意匠図	有・無	構造図	有・無	構造計算書	有・無		
	その他資料（ ）							
建築物概要	構造種別	RC・WRC・その他（ ）造						
	構造形式	X方向	ラーメン・耐震壁・ブレース		Y方向	ラーメン・耐震壁・ブレース		
	階数	地上	階・地下	階・塔屋	階	最高の高さ	m	
	敷地面積	m ²	建築面積	既存	m ²	延べ	既存	m ²
					m ²	面積		m ²
	主要用途							
	設計者							
	監理者							
施工者								

■RC造外観調査 ※必要に応じて調査に伴う写真等を添付すること

調査項目		調査結果
ひび割れ	構造（せん断・曲げ）	☐ 非常に多い ☐ 多い ☐ やや多い ☐ 少ない ☐ 殆ど無し
	変形（不同沈下など）	☐ 非常に多い ☐ 多い ☐ やや多い ☐ 少ない ☐ 殆ど無し
	乾燥収縮	☐ 非常に多い ☐ 多い ☐ やや多い ☐ 少ない ☐ 殆ど無し
	劣化	☐ 非常に多い ☐ 多い ☐ やや多い ☐ 少ない ☐ 殆ど無し
鉄筋の腐食状況		☐ 有 → ☐ 鉄筋の露出 ☐ 錆汁発生 ☐ その他（ ） （所見： ） ☐ 無
柱の傾斜及び梁・スラブ等の変形		☐ 有 （所見： ） ☐ 無
不同沈下 目視により不同沈下なしと判断した場合、 レベル測定が必要なし		☐ 有（相対沈下量： 1/ 程度） → ☐ 進行性 ☐ 非進行性 ☐ 無
仕上状態	外部	☐ 剥落が著しい ☐ 剥落がやや見受けられる ☐ 特に問題なし
	内部	☐ 剥落が著しい ☐ 剥落がやや見受けられる ☐ 特に問題なし
既存エキスパンションジョイント		☐ 有→ ☐ 所要の間隔が保たれている → ☐ 所要の間隔が保たれていない（層間変形角の 1/ 程度） ☐ 無
設計図書と現況の相違箇所		☐ 有（相違箇所と状況） ☐ 無
その他特記事項等 ・ 四本柱や塔状建築物 ・ ピロティ形式の建築物 ・ 不整形な平面形状など		

■既存建築物の概要等

設計図書等の有無	意匠図	有・無		構造図		有・無		構造計算書		有・無		
	その他資料（ ）											
建築物概要	構造種別	S・軽量S・SRC・その他（ ）造										
	構造形式	X方向		ラーメン・ブレース・			Y方向		ラーメン・ブレース・			
	階数	地上		階・地下		階・塔屋		階		最高の高さ		m
	敷地面積	m ²	建築面積	既存		m ²		延べ面積	既存		m ²	
						m ²					m ²	
	主要用途											
	設計者											
	監理者											
施工者												

■S造外観調査 ※必要に応じて調査に伴う写真等を添付すること

調査項目			調査結果			
建築物の傾斜			☐ 有 （所見： ） ☐ 無			
不同沈下 目視により不同沈下なしと判断した場合、 レベル測定が必要なし			☐ 有（相対沈下量： 1/ 程度） → ☐ 進行性 ☐ 非進行性 ☐ 無			
既存エクスパンションジョイント			☐ 有→ ☐ 所要の間隔が保たれている → ☐ 所要の間隔が保たれていない（層間変形角の 1/ 程度） ☐ 無			
柱梁接合部	ダイヤフラム	形状・寸法	平成 12 年建設省告示第 1464 号二号イの適、不適等を記入 →（所見： ）			
		板厚	☐ 梁フランジ厚より大きい ☐ 梁フランジ厚と同厚 ☐ 梁フランジ厚より小さい			
	溶接継目	種類	☐ 梁端フランジ接合部（ ）溶接		寸法	☐ 支障あり ☐ 支障なし
			☐ 梁端ウェブ接合部（ ）溶接			☐ 支障あり ☐ 支障なし
			☐ 軸組筋かい接合部（ ）溶接			☐ 支障あり ☐ 支障なし
スカラップの有無		☐ 有（従来型・改良型）→（精度： ☐ 良好 ☐ ややノッチあり ☐ 鋭いノッチあり） ☐ 無				
その他の仕口・継手部	ボルト接合部	☐ 有（所見： ） ☐ 無				
	溶接部	☐ 有（所見： ） ☐ 無				
筋かい材の座屈、垂れ下がり			☐ 有 （所見： ） ☐ 無			
設計図書と現況の相違箇所			☐ 有（相違箇所と状況） ☐ 無			
その他特記事項 ・四本柱や塔状建築物 ・ピロティ形式の建築物 ・不整形な平面形状など						

■既存建築物の概要等

設計図書等 の有無	意匠図	有・無	構造図	有・無	構造計算書	有・無		
	その他資料（ ）							
建築物概要	構造種別	在来・枠組壁工法・その他（ ）						
	階数	地上	階・地下	階・塔屋	階	最高の高さ	m	
	敷地面積	m ²	建築面積	既存	m ²	延べ	既存	m ²
					m ²	面積		m ²
	主要用途							
	設計者							
	監理者							
施工者								

■木造外観調査 ※必要に応じて調査に伴う写真等を添付すること

調査項目		調査結果
基礎	ひび割れ	☐ 非常に多い ☐ 多い ☐ やや多い ☐ 少ない ☐ 殆ど無し
	鉄筋の腐食状況	☐ 有 → ☐ 鉄筋の露出 ☐ 錆汁発生 ☐ その他（ ） （所見： ） ☐ 無
建築物の傾斜		☐ 有 （所見： ） ☐ 無
不同沈下 目視により不同沈下なしと判断した場合、 レベル測定が必要なし		☐ 有（相対沈下量： 1/ 程度） → ☐ 進行性 ☐ 非進行性 ☐ 無
筋かい・耐力壁の位置・種別		☐ 筋かい・耐力壁 有 ☐ 種別： （所見： ） ☐ 筋かい・耐力壁 無
接合金物（筋かい端部、柱頭・柱脚）の有無・形状		☐ 有 （所見： ） ☐ 無
設計図書と現況の相違箇所		☐ 有（相違箇所と状況） ☐ 無
その他特記事項等 腐朽・腐食、蟻害等		

■既存建築物材料等調査

コン ク リ ー ト			配合計画書等（建設当時のプラントが JIS 工場）				確定・推定
	普通 ・ 高強度	現場築造杭	F_c （設計基準強度） $18 \cdot 21 \cdot 24 \cdot 27 \cdot 30 \cdot ()$ N/mm ²				確定・推定
		基 礎	F_c （設計基準強度） $18 \cdot 21 \cdot 24 \cdot 27 \cdot 30 \cdot ()$ N/mm ²				確定・推定
		階～ 階	F_c （設計基準強度） $18 \cdot 21 \cdot 24 \cdot 27 \cdot 30 \cdot ()$ N/mm ²				確定・推定
		階～ 階	F_c （設計基準強度） $18 \cdot 21 \cdot 24 \cdot 27 \cdot 30 \cdot ()$ N/mm ²				確定・推定
		階～ 階	F_c （設計基準強度） $18 \cdot 21 \cdot 24 \cdot 27 \cdot 30 \cdot ()$ N/mm ²				確定・推定
		階～ 階	F_c （設計基準強度） $18 \cdot 21 \cdot 24 \cdot 27 \cdot 30 \cdot ()$ N/mm ²				確定・推定
	軽量（1種・2種）		階～ 階	F_c :	N/mm ²	設計比重	
PCa・PC・HPCa・()		階～ 階	F_c :	N/mm ²	使用部位		確定・推定
鉄 筋	ミルシート（建設当時の鋼材メーカーが JIS 製造工場）						確定・推定
	種 類		径		使 用 箇 所		—
	丸鋼	SR235・295	$\phi \sim \phi$				確定・推定
	異形鉄筋	SD295（A・B）	D ～D				確定・推定
		SD345	D ～D				確定・推定
		SD390	D ～D				確定・推定
			D ～D				確定・推定
	高強度せん断補強筋						確定・推定
溶接金網（JIS G 3551）						確定・推定	
鉄 骨	ミルシート（建設当時の鋼材メーカーが JIS 製造工場）						確定・推定
	種 類		使 用 箇 所		現 場 溶 接		—
	SS400・SM400・SN400A. B. C・				有 ・ 無		確定・推定
	STKR400・STKR490・				有 ・ 無		確定・推定
	BCR295・BCP235・				有 ・ 無		確定・推定
	SM490A・SN490B. C・				有 ・ 無		確定・推定
	SSC400・				有 ・ 無		確定・推定
ボ ル ト	☐ 高力ボルト（F8T・F10T・S10T）		☐ 中ボルト（M ）		確定・推定		
	☐ アンカーボルト（シングル・ダブル）		☐ 頭付スタッドボルト（ ϕ ）				
認 定 材 料	コンクリート						確定・推定
	鋼材等						確定・推定
	その他						確定・推定

■基礎調査

支 持 地 盤	☐ 表土 ☐ ローム ☐ 砂礫 ☐ その他（ ） ☐ 改良地盤（工法： ）		GL— m	確定・推定
直 接 基 礎	☐ べた基礎 ☐ 布基礎 ☐ 独立基礎	確定・推定	地耐力 kN/m ²	確定・推定
杭 基 礎	既成杭（建設当時の杭材メーカーが JIS 製造工場）			確定・推定
	☐ RC 杭 ☐ PHC 杭（A 種・B 種・C 種） ☐ PRC 杭（I 種・II 種・III 種） ☐ SC 杭 ☐ 場所打ちコンクリート杭 ☐ 鋼管杭 ☐ H 形鋼杭 ☐ 木杭 ☐ その他（ ）			確定・推定

次の該当する事項を調査してください。

■コンクリートの強度調査等（※写真及び試験成績書等を添付すること）

調 査 項 目		備 考
	シュミットハンマーによる強度試験	・原則 3 箇所以上 ・写真及び試験成績書等を添付すること
	コンクリートコアによる圧縮強度試験	・原則各階ごと、各施工時期ごとに 3 本以上 ・写真及び試験成績書等を添付すること
	コンクリートの中酸化深さ試験	
	塩化物量の検査	

■鉄筋の調査（※写真及び試験成績書等を添付すること）

調 査 項 目		備 考
	はつり調査により鉄筋の径、本数、加工状態、かぶり等の確認	・各階ごとに柱、はり、耐力壁から 1 箇所以上 ・鉄筋探査機、X 線、レーダー等の使用可能
	圧接部分の超音波探傷試験	・資格所有者が検査すること ・補修・解体時に圧接部が現れるなど、調査可能な場所のみ

■鋼材の調査（※写真及び試験成績書等を添付すること）

調 査 項 目		備 考
	鋼材等の材質試験	・柱、はり
	溶接部の検査	・資格所有者が検査すること ・検査率 30%程度 外観検査：突合せ溶接部、隅肉溶接部 UT 検査：完全溶込み溶接部

■部材寸法等（※写真を添付すること）

調 査 項 目		備 考
	部材断面・寸法等の計測	・所要構造部材ごとに確認すること

■設計図書と現況の相違箇所

（耐震壁及び開口部の位置、使用部材、用途変更等、具体的に記入すること）

■考察及びその他特記事項等

調査報告書 5

調 査 項 目		備 考
	シュミットハンマーによる強度試験（基礎部含む）	・各階ごと、各施工時期ごとに3箇所以上 ・写真及び試験成績書等を添付すること
	コンクリートコアによる圧縮強度試験	・各階ごと、各施工時期ごとに3本以上 ・写真及び試験成績書等を添付すること
	コンクリートの中性化深さ試験	
	塩化物量の検査	

調 査 項 目		備 考
	はつり調査により鉄筋の径、本数、加工状態、かぶり等の確認	・各階ごとに柱、はり、耐力壁から3箇所以上 ・鉄筋探査機、X線、レーダー等の使用可能
	圧接部分の超音波探傷試験	・資格所有者が検査すること ・補修・解体時に圧接部が現れるなど、調査可能な場所のみ

調 査 項 目		備 考
	鋼材等の材質試験	・ 柱、はり
	溶接部の検査	・ 資格所有者が検査すること ・ 検査率各階 50%以上 外観検査：突合せ溶接部、隅肉溶接部 UT 検査：完全溶込み溶接部

調 査 項 目		備 考
	部材断面・寸法等の計測	・所要構造部材ごとに確認すること